

連

第一夜

電子写真機變愛

涙の最終回を迎えた『デジカメ☆ナウ』からひと月。「明日からどんなデジカメを選べばいいのだ!」「ナウロスでなう……」等の声に応じて新連載開始でございます。以後、改めましておもしろおきを!

操作性は?



ガイドナンバー約5 (ISO100)、約18ミリ(35ミリ換算29mm)の画角をカバーするE-TTL II 自動調光の内蔵ストロボを新たに搭載。スナップなどの撮影にもよし、暗く陰った被写体を浮き立たせるために発光してもよし。ストロボを備えているのと無いのではやはり撮影の自由度が違います。

高感度は?

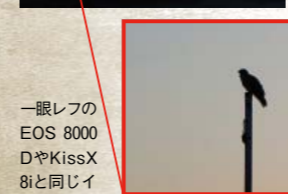
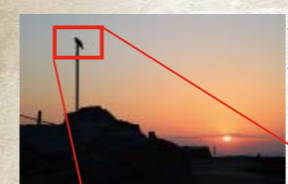


拡張時にはISO 25600まで増感可能なM3は高感度域の撮影も大の得意なのである。写真は暗めのラーメン店内にてISO3200、激辛の具材の鍋々しさをよく表現している。ちなみに、いい歯痛になったらあんまり辛いのはやめたほうが翌日は吉。



カメラをホールドしやすくするボディジャケットEH27-CJとEOS M3用の斜めがけ可能なネックストラップEM-E2。

描写力は?



一眼レフのEOS 8000DやKissX8iと同じイメージセンサー、処理エンジンを持つ大画素のEOS M3は細部までシャープに結像しており、拡大しても産の腐(くちばし)のカタチがシルエットでよくわかるのです。精度の高いオートフォーカスも描写性能に貢献しています。



上に約180度、下に約45度のアングル可動する3.0型約104万ドットのチルト液晶を搭載。設定やピントを直感的に操作できるタッチパネルを採用。



撮影に集中するのに強い味方の電子ビューファインダー-EVF-DC1。236万画素の高精細なファインダーで視野率約100%。約90度のチルトが可能。

キヤノン

EOS M3 18-55mm+EVFキット

有効画素数:約2420万画素
背面モニター:3.0型タッチパネル上下可動式
撮影可能枚数:約250枚
撮影感度:100~12800

製品写真/油科康司(WPP)

ポでありましたが改めて搭載されたことにより、ちよつとした暗がりや逆光で陰になっている被写体をおこしたいときなど、ストロボはやっぱりあると便利だよなと思っただ次第。
そのかわり、ほんのわずかにボディが重くなりました。軽快だったM2に比べてホールド感が上がったもののボディ質量約319gと約81gアップ、サイズも幅で6mm、高さで2.8mm、厚さで12.8mmアップになりましたが、上180度、下に約45度可動のチルト液晶モニター、カメラ上部に3ダイヤル、背面ダイヤルと直感的に操作を可能にしたダイヤル配列とこのサイズアップは必要であつたのだと思えばわかる扱いやさき。
さあ、それでは実写してみようではないですか! 現在のところEOS M3に装着できる専用レンズEF-Mシリーズは超広角レンズのEF-M11-22mm F4.5-6.3 IS STM、望遠ズームのEF-M55-200mm F4.5-6.3 IS STMは35ミリ換算約320mmの望遠撮影が可能になったレンズ。そして単焦点薄型パンケーキレンズであるEF-M22mm F2.8 STM。軽快で最短撮影距離15cmのクローズアップ撮影も魅力な薄型レンズですね。
最後に汎用性にすぐれた幅広いシーンをカバーできる標準ズームレンズであるEF-M18-55mm F3.5-5.6 IS STM。この4本が現在Mシリーズ専用マウントとなつておりますが、マウントアダプターEF-EOS Mを使用すれば膨大なEFレンズを装着して多彩な表現力を手に入れること

こ ん な 写 真 に 變 を す る



EF-M18-55mm F3.5-5.6 IS STM

EF-M18-55mm F3.5-5.6 IS STM (広角)

高画素化したボディにも耐えうるシャープな描写能力を備えた標準ズームレンズがEF-M18-55mm F3.5-5.6 IS STM。非球面レンズと強力な手ブレ補正機能で扱いやすく、さまざまなシーンをこの1本で撮影することが可能。35ミリ判換算で28.8ミリから88ミリをカバーするズームとしてはそれほどコンパクトではないが、無理に小型化せず、安心感のある描写能力が使いやすい。写真は多彩なクリエイティブフィルターからジオラマ風をセレクトして、ピント位置調整、フォーカス部分の幅はLを採用し立体感を強調。

EF-M18-55mm F3.5-5.6 IS STM (望遠)

同じ標準ズームで撮影した写真でもワイド側とテレ側では、まったく違う表情を見せてオモシロいのだ。レンズのバースを効かせたアクティブな描写が得意なワイド側にくらべ、望遠側は標準的な絞りF値と相成り、遠くまで続くなかなかのフォーカスで描写力を活かしたほうがいい。本来の望遠レンズとは異なり、遠くの被写体にそれほど肉薄できる焦点距離は備えていないが、大画素2420万画素を頼りにじやんじやん撮影してもらいたい。ちよつと小さいかなと思つて倍にトリミングしてもまだ1200万画素もあるのだから。

撮影データ
絞りF5.6
シャッター速度1/400秒
ISO100
焦点距離55mm(35ミリ換算88mm)
カメラ内画像トリミング加工

撮影データ
絞りF18
シャッター速度1/125秒
ISO100
焦点距離18mm(35ミリ換算28.8mm)
内蔵ストロボ使用(+2補正)
クリエイティブフィルター「ジオラマ風」使用

写真と文 織本知之

冬のスタッドレスタイヤから夏のノーマルタイヤに履き替えた途端、足元の軽やかさと春の気持ちいい追い風に、つい愛車のアクセルを踏み気味に。結果ラジエターが20万kmの過走行に耐えられずあえなく……。こんな春の風がフトコロに吹きかけました。

ができます。その際、小型軽量のボディに大口径のEFレンズを装着するのに強度的な心配もありません。EOS M3はフレームをマグネシウム合金とした堅牢強固な構造であります。ゆえ、大型重量級のFEレンズを装着しても安心して撮影を楽しむことができます。
また、ミラーレス一眼に多い、背面の液晶モニターを見ながらの撮影がどうも落ち着かないという従来からのカメラファンの皆様にも、電子ビューファインダー-EVF-DC1も用意されました。視野率約100%、236万画素の高精細なファインダーは決して光学ファインダーに劣りせず、約90度可動するファインダー部分はローアングルの構図の決定に非常に役立つオプションであります。この電子ファインダーを同梱した「EVFキット」が2万5000円台限定発売中(キットは4種類。実質EVFがたつた3000円)で付いてくる勘定ゆえ、善男善女さまあ急げ!

キヤノンのいいよミラーレス一眼へ乗り出してきたと世間が期待したEOS Mシリーズ。そう、Mといえばキヤノンの意欲作でありましたが、続くM2へ世間の風は冷たかった……。的な感じでありました。M2だつて悪いカメラじゃなかったんです、ただねデジ一眼レフEOSシリーズが高性能すぎて、ミラーレスEOSの立場が辛かった。たとえは長嶋一茂だってそんなに悪い選手じゃなかったのに常にババと比べられては気の毒でした。若い芽は摘んでダメ、伸ばすようにしないとね。
今回のEOS M3では初代より約2年半の歳月を経て、一眼レフEOSの8000DやKissX8iと共通のモジュールを搭載し、このクラスとしては圧倒的なスペックを手に入れました。この新たなM3を以てミラーレス一眼のトドメとしたいキヤノンの猛り具合はいかほどなのか、皆様と一緒に見てゆこうではありませんか。

今回のフルモデルチェンジでは新センサーで約1800万画素から約2420万画素へ大画素化に成功し、さらに画像処理エンジンも進化してこのあたりは同時発表のEOS 8000D&KissX8iとは同じと見ていいでしょう。ミラーとファインダーをシェアした一眼レフ画質なのであります。画素も大幅にアップ、さらにAF方式が進化した測距点も18箇所増やして49点AFに強化されたりということと尽くしたM3なのであります。なにかでも個人的にやっぱ必要だよなと思つたのが「内蔵ストロボ」。M2とM3では非搭載だったストロ